

# あがな キリストの贖い

一神・人の誕生と死の奥義を開く

「見よ、世の人の罪を取り除く神の小羊」

(ヨハネ第1章29節)



神は人をご自身のかたちで造られました。その目的は、人が神を入れ、神を内容とし、神を表現するためです。しかし、最初の人アダムが堕落を通して、「悪魔」が人の体の中に入り、その中に住み、その中で活動する「罪」（罪の性質と力）となりました。そのため、人は罪の奴隷となってしまいました。悪魔こそ、この内住の罪の源であり、内住の罪は人が外側で犯す「さまざまな罪」の根源です。こうして、人は神を表現するどころか、多くの時、罪を通して悪魔を表現するようになりました。

それにもかかわらず、人に対する神の当初の目的は決して変わることがありません。ある日、神は「肉体」と成り、人としてこの世に来られました。この方が主イエス・キリストです。彼はわたしたちの問題を解決する救い主であり、また神の当初の目的を達成するキリストです。彼は神全体であり、また完全な人です。彼は善人をはるかに超えた方であり、偉人、賢人、聖人をもはるかに越えた方です。彼は神・人です。

この方、神・人は十字架に釘づけられ、贖いのわざを完成されました。彼の死は単なる殉教の死ではありません。彼は三種類の身分をもって死なれました。第一に、「神の小羊」として、人が犯したすべての罪を担い、人の身代わりとなって神の裁きを受け、それらの罪を完全に取り除きました。第二に、「青銅の蛇」として、悪魔を滅ぼし、人の体の中で活動している内住の罪を死に渡しました。第三に、「一粒の麦」として、外側の人性の殻を裂き、内側の神聖な命、すなわち命である神を解き放ちました。彼の死は、人が持つべきではないのに持っている内住の罪を除き去り、人が持つべきなのに持っていない神聖な命を与えます。

主イエスは十字架につけられた後、三日目に復活し、「命を与える霊」と成られました。わたしたちが彼を信じ受け入れるなら、彼は命を与える霊としてわたしたちの霊の中に入り、わたしたちの霊と結合し、十字架上で完成された贖いをわたしたちに適用します。わたしたちが犯したすべての罪は赦され、洗い清められ、わたしたちは神の御前で雪のように白くされます。さらに彼は、十字架上で解き放たれた神聖な命をわたしたちの霊の中に分与されます。この命は体の中の内住の罪に打ち勝ち、わたしたちを内住の罪から解放します。また、この命は魂の中へと日々広がって、わたしたちは徐々に造り変えられ、神を表現するようになります。